

道徳学習指導案

授業者

村田洋子

- 1 日時 平成16年9月28日(火)
- 2 学年 第2学年1組 17名
- 3 主題名 ふるさとのよさ 4-(4)郷土愛
- 4 資料名 おじいちゃんのたからもの

ふるさとは金色にかがやいているー(一部改作)

(心に響く道徳学習教材 広島県教育委員会)

5 主題設定の理由

長江は、児童にとって自己形成の基盤となる最も身近な場である。幼少期の心の中の原風景として、自分たちの住む郷土の自然や文化・伝統に愛着を持たせることは、これから成長していく児童の心の支えとして欠かせない。そのため、郷土の行事等での人との「かかわり」を大切に、郷土を愛する心を育てたい。

2年生の児童は、生活科で米作りの体験を通して、長年長江で生活し長江を愛しているOさんとの「かかわり」がある。本資料は、この「かかわり」を生かして、郷土のよさに目を向け、郷土の素晴らしさをあらためて知り、愛着を高めることに有効であると考へ主題を設定した。

自分にとっての郷土を理解することや、その郷土への愛着を一人ひとりの心の中に深く印象づける一助としたい。

児童は、日常の経験や生活科の学習から、家庭や学校を取りまく郷土に目が向けられるようになってきている。このことを、考慮して郷土の自然や文化にふれ、人々のふれあいを深めることで、郷土への愛着を高め、親しみを持って生活できるようにすることが大切である。

「かかわり」のあるOさんの思いに重ね合わせながら、資料中の「おじいちゃんのたからもの」を考えさせ、そのたからものが郷土であることに気付かせていきたい。

児童は田植えの体験はあるが、その後の作業の体験がない。実りの時期を迎えて、「早く稲刈りをしたい」という体験の楽しさへ目が向きがちな児童もいるため、生活科において、植物の成長やその様子とともにOさんの仕事をする様子を、ビデオで見たり、作業をするOさんへの手紙を書くことで、Oさんの田(土地)への愛着にも着目させておきたい。

本学級の児童がどのようなものを宝物と捉えているかつかむために、次のようなアンケートを行った。

児童の実態

- 1 あなたは、たからものを持っていますか？
(はい 17名 いいえ 0名)
- 2 その「たからもの」は、何ですか。
 - ・カード(絵がかっこいいから)
 - ・とかげのしっぽ(めずらしいから)
 - ・金メダル(リレーの試合でもらったから)
 - ・オルゴール(誕生日にお母さんからもらったから)
 - ・すず(亡くなったおじいさんからもらったから)
 - ・えんぴつ(転校した友だちがくれたものだから)
- 3 長江(尾道)の「たからもの」は、何ですか？
 - ・家の近くの人に自分からあいさつができる。
 - ・山や海がいっぱいあって、みんながいい気持ちになる。
 - ・千光寺(景色がいいし、遠くの所からもお客さんが来られるから。)

多くは他の人からもらったモノである。しかし、個人的に所有しているモノとしての

たからもの、家族の思いがこもったたからもの、友達の思いがこもったたからものなど、その理由は多岐にわたっている。わずかではあるが、郷土のシンボリックな存在である千光寺をたからものと捉えている児童もみられる。

このような実態から、郷土をたからものだと思っておじいちゃん的心情に、主人公が共感することを通して、長江も自分たちにとってのたからものであることを改めて感じ取らせていきたい。そして、主人公に向けられる優しいまなざしや行動とともに、今まであまり強く意識することのなかった長江を見つめ直し、より愛着を感じてほしいと願っている。

指導にあたっては、全体を4部に分け、写真やカードを提示して各場面の様子をはっきりと把握させていく。そして、主人公の心情の変化に気づくことができるよう、主人公の顔の表情を表す掲示を工夫する。

そして、ぼくとおじいちゃんのいねかりの様子を比べながら、自分をみつめ、おじいちゃんの米作りに対する気持ち、郷土を大切にすることを通して、主人公の郷土を大切にすることをめざす気持ちへの気づきに共感させていく。その際、主人公の気持ちをじっくりと考えるため、ワークシートに児童の考えをさせる。その後、役割演技を取り入れ、主人公の郷土を大切にすることをめざす気持ちを確かめるものにしていきたい。

また、実際に、Oさんから児童へのビデオレターを視聴することにより、Oさんとおじいちゃんの郷土に対する思いを重ね合わせ、心情理解の効果を高めたい。

終末では、資料から離れて、身近な地域のよさを地域のたからものとして具体的に引き上げ、地域の良さに迫らせるようにする。

6 研究主題との関連

(1) 人との「かかわり」

児童相互の「かかわり」

2年生の児童は、他律から自律への移行期の始まりとなる。そこで、特に、話し合いの場面では自分の考えを出し合うということを大切に、互いの考えを比べ、その理由を意識していくようにしたい。そして、児童相互の交流を促し、自分自身の考えをみつめることに生かされるようにしていきたい。そのためには、まず、自分の考えを持ち、他の児童に対して相互に出し合うことが必要となる。

導入場面での、ぼくのわたしのたからものが、終末場面では地域のたからもの考えることへ移行することも、他の児童の考えを自分に照らすための一つの工夫である。

自分の考えを出していくには、過去の自分の経験を「ふりかえる」ことも有効であると考える。そこで、Oさんとの「かかわり」を、資料を通して自然に「ふりかえる」ことができるような資料提示や発問をしていきたい。

教材に位置づく人との「かかわり」

まずは、主人公と児童との「かかわり」である。自分の経験に照らしながら、主人公の郷土の良さに気づいていく過程をつかませていくことが必要である。

そして、各場面の状況を掴みながら、米を仲立ちとした主人公とおじいちゃんとの間の「かかわり」が、深められていく様子を理解していくことが欠かせない。

後半部分では、ぼくがおじいちゃんと話しながら作業して思ったことを出し合っていく、それから、主人公が、初めて「宝物は地域にもある」という事に気付いたことを通して、児童自身にも、たからものは地域にもあるということを実感させていく。

その核となるのが、中心発問なぜ、かまを握るぼくの手にも力がわいてきたのだろう。である。このとき、ぼくのおじいちゃんとの「かかわり」を絡めて、児童が表現できるようにしたい。

その際、児童とOさんとの「かかわり」から、17年間にわたって長江小学校の児童に米作りを体験させてくださっているOさんの児童に対する思いを聞くことで、Oさんの郷土への愛着をより理解できる。そして、本時の資料を通しての学習で、道徳的価値に直接触れることを通して、この後、Oさんとの「かかわり」がより主体的になり、更に深まっていくことも期待している。

(2) 役割取得

なぜ、かまを握るぼくの手にも力がわいてきたのだろう。という中心発問に至るまで、ずっと主人公の心情を追い続けていくことで、主人公へ役割取得するという視点を明確にしておく。そして、中心発問が出された後、まず、主人公の気持ちを用意したワークシートに書くことで、主人公の心情を通して、自分を見つめるきっかけとする。更に、教師がおじいちゃん、児童が主人公になる役割演技をおこなう。役割演技では、おじいちゃんは、本当に地域みんなにお米という宝物を伝えたいんだなあという実感のこもったものとなることを期待している。役割を演ずる児童はもちろんであるが、役割演技を観た児童が、その役割演技に対して意見や感想を述べることで、役割取得をより確かなものにしていきたい。

終末では、地域のたからものについて、一枚の写真を通して児童相互にイメージしたことを出し合いながら、地域のたからものとはいったいどのようなものか、その良さを感じながら、発言させたい。

(3) 伝統・文化

児童は、ここ長江・尾道に生まれ育ってきた様々な体験を土台として、2年生なりに郷土と積極的につながっている。地域の特色を肌で感じながら、このような体験を積み重ねていくことが、まず大切である。

この時期、郷土に対して何か役立つことができなかと強調していくよりも、じっくりと郷土とのふれあいを持たせたい。そして、郷土の文化や伝統の良さに関心を持ち大切にしたいという心情を育てていきたい。

本時では、特に、地域の伝統や文化を守り、継承・発展させていこうとする人の営みを、資料の登場人物、あるいはOさんとの「かかわり」を通して、米作りを介して具体的に迫り、他のものへ一般化できるようにしたい。

7 本時のねらい

米作りをするおじいちゃんの郷土を愛する気持ちを感じ、郷土を愛する心情を高める。

8 準備物

- ・ワークシート
- ・さし絵
- ・写真
- ・ビデオテープ

9 学習過程

段階	子どもの意識と学習過程	教師の働きかけ【支援 と評価 , 方法 ()】
導入	自分の宝物を出し合う。 ・カード(絵がかっこいいから) ・人形(誕生日のプレゼントにもらったから)	本時の学習に興味関心を持たせる。 自分にとっての宝物を、理由をもとに説明する。 「たからもの」とはどういうものか感じとることができたか。(発表)
展開	資料「おじいちゃんのたからもの」を見て話し合う。(前半部) ぼくが稲刈りに行くときなぜ走っていったのだろう。 ・早く刈りたいな。 ・うれしいな。 ・楽しそう。	資料を読み語り、場面状況を把握する。 稲が実ったときの写真を提示する。 生活科で田植えをしたことを思い起こし、ようやく実った稲を刈ることに張り切っているぼくの気持ちを感じとることができたか。(発表) 「ぼくの笑顔」をはる。
閉		

入	<p>あんなに張り切っていたぼくなのに，どうしてため息が出てしまうのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく刈れないから。 ・刈っても刈っても，まだたくさんあるから。 ・しんどくなったから。 <p>資料「おじいちゃんのたからもの」を見て話し合う。(後半部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ，かまをにぎるぼくの手にも力がわいてきたのだろう。</p> </div> <p>ワークシートにおじいちゃんの話聞いてぼくが思ったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんは，すごいな。ようし，がんばるぞ。 ・おじいちゃんは，こんなに米作りが好きなんだな。 ・おじいちゃん，しんどいから無理しないでね。 ・おじいちゃんの宝物は，お米なんだね。 ・みんなにたからものを伝えたいんだね。 <p>Oさんのビデオテープを見，メッセージを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Oさんもおじいちゃんと同じで，ここ（長江）が好きなんだね。 ・ぼくたちも，もう少ししたら稲刈りだ。 ・がんばって稲刈りをするぞ。 	<p>思ったより大変な稲刈りに対してだんだん気持ちがしぼんでいくぼくの様子を感じとれたか。(観察)</p> <p>「ぼくの疲れた顔」を貼る。</p> <p>おじいちゃんのいねかりの様子を確認し，自分たちの稲刈りの様子をふり返る。</p> <p>やる気になった「ぼくの顔」を貼る。</p> <p>ぼくの気持ちを発表する。</p> <p>役割演技を通して，ぼくの心情の変化を感じとることができたか。(観察)</p> <p>米を地域の宝ものだというおじいちゃんの気持ちと，米作りを続けているOさんの思いを重ね合わせて考えることができたか。(発表)</p>
終末	<p>写真を提示し，「地域のたからもの」を見つける。</p> <p>長江はいろいろな宝物があるんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭り・・・みんなが一緒になってがんばっているところがいいな。 ・千光寺・・・景色がいいから 	<p>児童が身近に感じる地域の宝物についての写真を提示する。</p> <p>個人的な宝物ではなく，地域の宝物に留意し，地域のよさに気付くようにする。(観察)</p>

おじいちゃんのたからもの

ふるさとは金色にかがやいている

資料 心に響く道徳教材 広島県教育委員会

(一部改作編)

【一部】

ぼくは、朝からわくわくしていた。だって、今日はぼくたちのいねかりの日。小さな緑色の草みたいなのがぐんぐんのびて、お米の粒をいっぱいつけてゆれている。はじめてかまを持てるし、いねかりって楽しそう。先生といっしょに田んぼまで走った。

【二部】

おじいちゃんからいねのかりかたを教えてもらった。
「なあんだ、かんたんそうじゃないか。」
「ようし、やるぞお。」
ぼくは、はりきったね。ざくつ。。。。
「あれっ、うまくいかない。」
じより・・・じより・・・じより・・・。なんかいもじよりじよりやって、やっとかれた。
「フー。」

かってもかっても、まだまだいねはいっぱいならんでいる。となりのまことさんも、そのとなりのゆうこさんもためいきを

ついている。

「やれやれ・・・。」

【三部】

おじいちゃんの顔をちらりと見る。あせびっしよりだ。でも、ちつともかまをもつ手を休めようとしない。どんどんいねのたばが重ねられていく。ざくっ、ざくっ。

おじいちゃんは、ふっふとわらって

「つかれたか？休み休みやれえよ。」
と言ってくれた。

【四部】

ぼくは、

「おじいちゃんは休まんの？」
と聞いてみた。

そうしたら、おじいちゃんは、ぼくにこう言ったんだ。

「おじいちゃんはお米を育てるのが大好きなんじゃ。広い田んぼの黄色い稲が、あの山の向こうの夕日に光って金色に輝くんじゃ。立派に育った稲を見ると、うれしくなる。ここに生まれて、お米を育てることができて良かったと思うで。田植えも稲刈りもここでは、近所の人たちとみんなでいっしょにするんじやよ。米はこのたからものじゃ。おじいちゃんは、みんなにもこのたからものを伝えていきたいと思うとるんじや。」

(ワークシート記入・役割演技)

「ようし、ほくもやるぞ。」

かまをにぎるほくの手にも力がわいてきた。